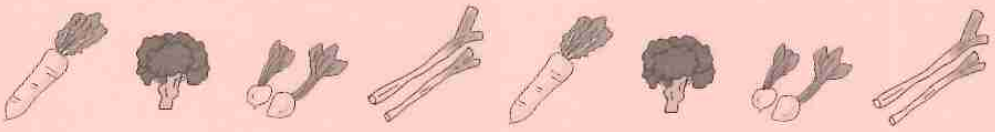
えんの食卓
（配食サービス）

～フレッシュな二人が応援に入って、利用者さんも喜んでます～

昨年の4月からえんの食卓で配達のお手伝いをさせていただいている柏木流音です。父がえんで働いていることと、昨今のコロナ禍の影響で時間ができた事が配達を始めるきっかけになりました。

利用者さんの方々は今までほとんど関わったことのない層の方が多く、自分が受け入れてもらえるか少し心配でした。しかしそんな心配も無駄で、お弁当を渡すときに皆様が必ず「いつもありがとうね」とか「ご苦労様」などの声をかけてくださいます。中にはベッドからなかなか動けない方もいますが、それでも声はかけてくださいます。とても心が温かくなりました。これからもたくさんの方に喜んでいただけるように頑張りたいです。

（柏木流音）



初めまして、去年の 10 月から高齢者配食サービスのアルバイトをさせていただいている清水凛です（大学 4 年なので就職する日までになります）。

最初は 15～20 件ほどの家の場所を覚えることができるのか、事故を起こさずひとりでお弁当を届けることができるのか、様々な不安がありました。しかし、「えん食卓」のスタッフが自分に自信がつくまでしっかりと教えて下さったお陰で、ひとりひとりに確実にお弁当を届けられるようになりました。

また、このアルバイトをしていくにつれてただ“お弁当を届ける”というだけでなく、利用者の安否確認や表情や顔色を伺い、様子を見るということも仕事のひとつだということが分かりました。

最初はお弁当を届けることで精いっぱいでしたが、これからは利用者の様子を把握し、少しでも長く美味しいお弁当を食べつづけてほしいです。

私からの意見です。

利用者の方からはいつも「美味しいお弁当をありがとう」などと感謝の言葉をいただきます。しかし、中にはおいしくないという方や、残してしまう方、内容に飽きたという方がいらっしゃいます。利用者の方がワクワクするようなお弁当を作るために、よく小学校で行われる“リクエスト献立”や、残してしまいがちなもの、取り入れてほしいものなどの項目を入れたアンケートをしてみると、より質の良いお弁当ができるのではないかと考えました。

（清水凛）